

## 事務事業計画書兼評価表(A表)

1 事務事業に関する基本情報				平成	25	年度
事業番号	43	事業名	男女共同参画推進費			
担当課	男女共同参画センター	担当係				
総合計画に最も関連ある施策	施策	1	住民一人ひとりが主役のまちづくり	連絡先	84-2361	
	施策体系	3	男女共同参画のまちづくり	事業区分	□新規 ■継続	
	主な事業	男女共同参画フェスティバルの開催等				
予算区分	款	2	総務費	事業実施主体	■八頭町 □その他	
	項	1	総務管理費			
	目	5	男女共同参画事業費	計画期間	開始	—
	事業	43	男女共同参画推進費		終了	—

### 2 事務事業の概要

事業の対象	誰(何)に対してこの事業を行うのか記載。 町民					
事業の目的	誰(何)をどうするためにこの事業を行うのか記載。 家庭、地域、職場、学校等で男女共同参画社会づくりへの施策を推進し、固定的性別役割分担意識を見直す中で、男女の人権が等しく尊重され、女性も男性も輝きながら暮らせるまちづくりをめざす。					
事業の内容	事業の規模や業務量などを具体的に記載。 母親サロン、父親の育児講座、かがやきカフェの開催。男女共同参画リーダー研修。男女共同参画フェスティバル及び子育てフェスティバルの開催。町報への4コマまんがの掲載。弁護士によるなんでも相談。集落、団体等への出前研修会。各種審議会委員等への女性の登用促進。					
事業の手段	どういう方法、手順で事業を進めるのか、具体的に記載。 町民を対象に各種講座、事業等への参加者を募集し事業を実施する。実行委員を募り「男女共同参画フェスティバル」を開催する。父親の育児講座実行委員会と合同で子育てフェスティバルを開催する。男女共同参画リーダー養成のため、参加者を募集し研修を実施する。					
事業の成果到達点	どんな成果を得たいのか、または、何がどうなれば達成か、具体的に記載。 各種講座・事業等を通じて、性別による固定的な役割分担意識の是正が図られることで、社会的、文化的に形成された性別の概念にとらわれることなく、男女が共に自分自身の意志により、あらゆる分野で対等に参画できる社会を実現する。					
根拠法令等	2.3	1. 法令(義務) 2. 法令(任意) 3. 条例 4. 規則・要綱等 5. なし			法令等名→	男女共同参画社会基本法、八頭町男女がともに輝くまちづくり条例

### 3 活動指標、成果指標

活動指標		単位	事業の手段を図るものさし			
	A	回	母親サロン・父親の育児講座・かがやきカフェの開催数			
	B	回	男女共同参画リーダー研修の開催数			
	C					
成果指標		単位	事業の成果、到達点を図るものさし			
	A	人	母親サロン・父親の育児講座・かがやきカフェの参加者数			
	B	人	男女共同参画リーダー研修の参加者数			
	C	人	男女共同参画フェスティバル(年1回開催)の参加者数			
	D	%	各種審議会委員等への女性の登用促進率			

### 4 コスト

区分		単位	23年度	24年度		25年度		26年度	27年度
			実績	目標	実績	目標	実績	目標	目標
活動指標	A	回	12	10	13	10	21	18	18
	B	回	1	3	4	3	3	3	3
	C								
	D								
成果指標	A	人	1,574	850	1,056	850	853	850	850
	B	人	12	50	61	50	61	50	50
	C	人	900	200	150	200	160	200	200
	D	%	38.0	50.0	40.0	50.0	42.9	50.0	50.0
トータルコスト		千円	28,558	22,853	23,577	22,453	21,501	22,032	22,032
担当職員数		人	2	2	2	2	2	2	2
職員人件費		千円	16,400	16,400	16,400	16,000	16,000	16,000	16,000
事業費		千円	12,158	6,453	7,177	6,453	5,501	6,032	6,032
事業費財源内訳	国庫支出金(交付金・補助金)	千円							
	県支出金(交付金・補助金)	千円	6,422	936	1,308	1,437	1,297	1,537	1,537
	地方債(借入金)	千円							
	事業収入(使用料・参加費等)	千円						28	28
一般財源(単町費)		千円	5,736	5,517	5,869	5,016	4,204	4,467	4,467

## 事務事業計画書兼評価表(B表)

### 5 実施活動内容・成果(到達点)

平成 25 年度

実施活動内容・成果(到達点)	実施活動内容(具体的に) 母親サロン:年15回開催、父親の育児講座:年2回開催、かがやきカフェ:年4回開催。男女共同参画リーダー研修:3回。男女共同参画フェスティバル及び子育てフェスティバル:それぞれ年1回開催。町報への4コマまんがの掲載:年12回掲載。弁護士によるなんでも相談:年6回実施。集落、団体等への出前研修会:年3回実施。各種審議会委員等への女性の登用促進。 成果(具体的に) 各種講座・事業等を実施した際、参加することで性別による固定的性別役割分担意識の是正を必要とすることに気づいたという感想がある。父親の子育てへの参加が増え各家庭それぞれ夫婦での子育てが進んでいることがうかがえる。女性議員と語る会を開催し、選挙に関心を持っていただき次なる講座(公職選挙法講座)の要望を受けた。
----------------	--

### 6 事務事業の評価

評価項目	評価点	点数	チェックポイント	判断理由・評価コメント(具体的に記入のこと)
<b>必要性</b> (町民ニーズ)	13	20	①必要性が高い	・町民の基本的な生活の維持・確保に必要な事業であり、行政運営上必要な事業である。 ・第2次八頭町男女共同参画プラン作成時のアンケート調査による実態把握に基づき事業を実施している。
		13	②どちらかと言えば必要性がある	
		7	③必要性が低い	
		0	④必要性がない	
<b>妥当性</b> (町が行わなければならないか)	13	20	①町が行わないといけない	・法令に定められた町の責任を具体化して実施する事業である。 ・税金で実施するにふさわしい事業で、町民への説明責任も果たせる。
		13	②どちらかと言えば町が実施	
		7	③妥当性が低い	
		0	④妥当性がない	
<b>効率性</b> (コスト削減の余地は無いか)	20	20	①効率的である	・住民一人当たりのコストは適正である。 ・費用対効果を考えながら企画運営している。 ・コスト削減への取り組みを実施している。(各事業PRポスター等の自前作成、スタッフ講師による事業実施等)
		13	②どちらかと言えば効率的である	
		7	③どちらかと言えば非効率的である	
		0	④非効率的である	
<b>緊急性</b> (他事業に優先し実施する必要があるか)	13	20	①緊急性が高い	・八頭町第2次男女共同参画プランに掲げられている施策、目標値等達成のためには継続して事業を実施する必要がある。
		13	②比較的緊急性がある	
		7	③緊急性が低い	
		0	④緊急性がない	
<b>成果</b> (目的の達成状況)	13	20	①成果が上がっている	・住民生活上の課題解決、住民参加による行政運営に貢献している。 ・成果指標の実績値が前年度を上回っている。
		13	②どちらかと言えば上がっている	
		7	③どちらかと言えば上がっていない	
		0	④成果が上がっていない	

一次評価	事業の方向性	点数	評価点合計	判定に至った理由
<b>2</b>	1、拡充する	80点以上	<b>72</b>	事業実施に当たっては、アンケート等で町民のニーズを把握し、それに合わせた事業を実施している。「男女共同参画フェスティバル」・「子育てフェスティバル」・「父親の育児講座」・「かがやきカフェ」の開催、各種リーダー研修や「男女共同参画かるた」・「子育てかるた」の活用により、広く町民へ男女共同参画意識の普及、啓発に貢献している。
	2、現状維持	60～79点		
	3、改善・効率化し継続	50～59点	評価点による判定	
	4、見直しの上縮小する	40～49点	<b>2</b>	
	5、終期設定し終了	30～39点		
	6、休止	20～29点		
	7、廃止	19点以下		

二次評価	事業の方向性	判定説明・意見
<b>2</b>	1、拡充する	事業実施にあつては、アンケート等で町民のニーズを把握し、月2回のペースで事業を実施している。4コマまんが等で町民への男女共同参画意識の普及・啓発に貢献しています。今後、行政内部の他課とも連携し事業を展開する必要があります。幅広い年齢層への「学習・啓発」を図り、参加者の増加、コスト削減を図り、幅広い年代の者が参加できる講座・研修会を開催し、文化交流を通じた笑顔のあふれるまちづくりを目指したいものです。
	2、現状維持	
	3、改善・効率化し継続	
	4、見直しの上縮小する	
	5、終期設定し終了	
	6、休止	
	7、廃止	

### 7 課題及び今後の方向性

課題	事業活動に当たり、一番の問題と捉えていること。重点的に手当てする事柄、改善点、工夫したい箇所 男女共同参画を広く町民に理解していただくとともに、幅広い年齢への「学習・啓発」事業を展開していく。
今後の方向性	上記課題を解決していくため、次年度どんな活動を展開していくのか 行政内部他課と協働で事業を展開し、参加者の増加、コスト削減を図り、幅広い年代が参加できる講座・研修会を開催することで、多年代の意識、文化交流を通じた笑顔のあふれるまちづくりを目指す。